

Q一般 質問A

一般質問議員と主な項目

6月19日登壇

■ 菅野與志昭 議員

- ・合併してよかった「伊達市」へについて

■ 佐藤 実 議員

- ・伊達市の観光の現状と今後の取り組みについて
- ・学校図書の充実について

■ 佐々木 彰 議員

- ・伊達市にある資源の把握とその活用について

■ 佐々木英章 議員

- ・核兵器廃絶へ市長の姿勢を明確に
- ・伊達市市民活動支援センター設置について
- ・小集落単位で膝詰め市政懇談会の開催を

■ 大條 一郎 議員

- ・太陽光発電の普及促進について
- ・観光圏整備事業の取り組みについて
- ・女性特有のがん対策について
- ・中学3年生までの医療費助成制度の実施について

■ 中村 正明 議員

- ・伊達市消防団員の確保、体制の充実、強化策について

6月22日登壇

■ 小野 誠滋 議員

- ・耕作放棄地解消について
- ・農商工一体の農政について
- ・遺族会支援について

■ 菅野 富夫 議員

- ・伊達市の乳幼児の子育ての方向づけについて
- ・大田地区に市が進めている認定こども園について

■ 堀江 泰幹 議員

- ・緊急経済対策について
- ・障がい者支援について

■ 高橋 一由 議員

- ・新型インフルエンザ（各家庭）対策について
- ・小学生医療費無料化と市長の政治姿勢について
- ・雇用状況と市の地元購買について

■ 大橋 良一 議員

- ・中山間地地域の支援対策について

Q

合併してよかったと
実感できる「伊達市」へ



菅野與志昭 議員

合併4年目を迎え、「合併して良かった」と市民が実感できるような伊達市へ向けて、今後のまちづくりをどのように進めていくのかお尋ねします。

A 合併4年目を迎え、ある程度、基本計画や各種の計画もでき上がっており、当面の課題であった財政健全化に一步前進したという状況の中で、新たな取り組みをして参りたいと判断しているところです。



各地で開催されている「ふれあい懇談会」

Q

素材を活かした観光施策を問う



佐藤 実 議員

では、昨年に引き続き22の小学校区単位で市民の皆さんとの懇談会を進めており、伊達市の方向や少子高齢化社会の地域ごとの対応を探っていくなどして、行政としての政策

実行に努めているところです。市民に対する説明責任を第一にして、市民協働を推進していくことが1つの方策であると考えているところです。

地域経済基盤強化の一環として、観光振興に力を入れる動きが強まっていますが、本市は伊達氏発祥の地であり、伊達政宗ゆかりの梁川八幡神社や南北朝時代に陸奥国府が



霊山こどもの村で開催された「霊山太鼓まつり」

今後とも、さまざまな素材を観光資源として活用し、伊達市にできるだけ長い時間滞在して楽しんでいただけるような魅力ある企画を検討することにより、誘客来訪、そして滞在型観光へと結びつけていきたいと考えております。

置かれた霊山など様々な歴史とロマンがあるだけでなく、霊山は国指定史跡であり新日本の百名山の名峰として集客力がある観光資源であると考えます。

しかし、現状はこれらの素材が活用されておらず、今後の本市の観光発展のため課題の抽出や整理をして具体策の検討、提案をはじめめる時期と考えますが、当局の考え方を伺います。

A 伊達市総合計画基本構想では、「地域資源を活かした観光の振興」を掲げ、歴史・文化的に貴重な史跡、優れた景観、果樹を中心とした農産物など豊富な資源を生かした観光を推進し、来訪者の増加と特産品販売による地域経済の振興を目指すとしています。

伊達市固有の観光資源や地域資源の素材の良さを活かしながら、伊達市でなければ味わえない付加価値をプラスすることで、より魅力ある観光メニューを創り上げていくことが大切であると思っています。

Q 伊達市地域資源の有効活用について



佐々木 彰 議員

人口減少が社会現象となっている今、本市においても人口を増加させることは難しいことと思いますが、定住人口が難しいなら交流人口を増やしていくことも一策ではない

A かと考えます。国が進めている農山漁村体験などのプログラムを活用し、都会の小学校を受け入れ、市内の既存の宿泊施設のみではなく、農家民泊も活用した形で滞在型のプランを検討し、地域資源を有効に活用する方策が必要と考えますが、所見を伺います。

お質しのとおり、農山漁村プロジェクトに

については取り組むべき課題であると思っておりますが、現在のところは取組みには至っていないところです。自然に親しみ体験することは、人格形成、健全育成には非常に大きな意味があり、都会の子供たちを受け入れることにより、将来またその子供を連れてくるような繋がりに発展していけばと感じておりますが、都会の子供たちと地元の子どもたちが同じ体験を出来るようなことも含め、私的な考えではありますが検討が必要と考えているところであります。

Q 核兵器廃絶を伊達市から全世界へ



佐々木英章 議員

核兵器廃絶で世界が動き出しました。アメリカ大統領オバマ氏が4月5日にプラハで行った演説で、アメリカ大統領として初めて核兵器のない

世界を追求すると、国家目標として宣言し、広島・長崎への核兵器使用が人類的道義にかかわることを初めて表明し、核兵器廃絶に向けて世界の諸国民に協力を呼びかけたというところであります。

市長としてアメリカの大統領の呼びかけを理解し、核兵器廃絶の訴えを全国、全世界に向けて呼びかけ、核兵器廃

A 今回のアメリカ、オバマ大統領の発言は、従来のアメリカの政策、アメリカの大統領のこれまでの姿勢からは大きな転換であり、歴史的に大きな意義があり、高く評価できるものと考えております。

市民の安全・安心、生活を守っていくのが市長の使命で

絶に向けた伊達市の大会を全国規模で図れるような目標を持って取り組む姿勢が必要と思うが、所見を伺います。

あり、その背景は平和であることは当然であり、国として平和を希求していくべきだと思います。

合併して4年目という状況にある伊達市を軌道に乗せて

Q

中学3年生までの医療費助成制度拡大を



大條 一郎 議員

県内各市町村では、通院における独自の医療費助成制度を実施している自治体が38団体あり約3分の2に上ります。市長のマニフェストの第一の柱には「安心して子育てができ、元気な子供が増えるまちづくり」とあります。伊達市は子育て支援策についてのトップランナーでなければならなと思っていますが、中学3年生までの医療費無料化の拡大について取り組むべきだと思いますが、所見を伺います。

いくこと、市民の安全・安心の生活を守ることが当面の課題であり、まずは、市政運営について一生懸命取り組むべきと考えているところです。

A

中学3年生までの医療費助成を行う県内の自治体が増えていることは承知しています。現在、隣接する福島市と同様に小学生医療費の無料化を求める強い要望が寄せられている中、厳しい財政事情のもとにあつて、平成19年10月から入院医療費に限り助成を開始し、今議会において当分の間一部負担を求める形で小学生通院医療費についても助成することをご提案いたしているところですが、今後、財政事情を考慮しながら無料化に向けて検討をしていきたいと考えて

伊達市議会のホームページを開設しています

おります。中学生までについても、小学生に対するものと併せて検討すべき課題であると認識をしているところです。



地域住民の健康を守る医療施設

Q

伊達市消防団員の確保と体制の充実強化策について



中村 正明 議員

最近の消防団を取り巻く環境は、就業構造の変化、若年層の都市部への流出、地域の連帯意識の希薄化、少子高齢化社会の進展とともに極めて厳しい状況にあり、本市においても、時代の変化に対応した運営が求められていると思います。

地域の安心・安全の中核的な担い手であり、地域防災の第一線において日夜、献身的な活動をいただいている消防団員の確保は、今後の伊達市において重要課題の一つであります。

その対策についてと同時に、合併後の消防団体制の充実強化策についても伺います。

ており、地域の安全確保のため役割は極めて大きいものがあります。

お質しのとおり、消防団を取り巻く情勢は極めて厳しいものがあり、団員の確保について社員の中に消防団員が何人いるかということも公共事業にかかわる登録業者の資格審査において評価に数えることに取り組み、昨年11月に県市、消防団が一緒に主なる企業や事業所を訪問し、理解と支援をお願いしたところです。また、各総合支所や各支団においても、入団適格者宅を訪問するなど団員確保に努力をしております。

消防団の組織機構については、合併に伴う組織強化と広域的で円滑な組織運営を図るという観点から、今年1月に消防団組織検討会を設置し、定数を含めた組織全般の見直しを行って、今年中に提言をいたいただく運びになっています。

また、屯所の整備、消防車両あるいはポンプ、無線通信等の機材の整備についても、厳しい財政事情の中ではあり

A

消防団は地域に密着して即時即応性を併せ持つ、火災のみでなくあらゆる災害に対応する役目も持つ